

「地域の力を学校へ」推進事業の実践例（平成24年度実施分）



テーマ

Theme

「水はどこから」

学校・園名

School name

栗東市立治田小学校(4年生)

講師等

Lecturer etc.

滋賀県企業庁

実施日

Date

平成24年5月15日

教科等

Subject etc.

社会

授業 Class

琵琶湖の水はどのように浄化され飲み水になるのか、浄水場の仕組みについて学びました。

地球全体で飲料水にできる水はわずか1%と言われる一方で、一人当たりの一日の水の使用量は平均300ℓ(バケツ20杯分)にもものぼります。児童らは驚きとともに、蛇口をひねればいつでも出てくる水について「無駄遣いしていないか」と考えさせられたようでした。

浄化の一段階である「薬品沈殿」を PAC(ポリ塩化アルミニウム)という薬品を使って、汚れなどが沈殿する現象を再現しました。ブルーに着色した水に PAC を入れて混ぜると、水が一気に透明になり、児童から「うわーすごい」と歓声があがりました。児童らは口々に「僕もやりたい」、「(後ろの生徒から)もっと近くで見たい」と、終始好奇心旺盛な様子でした。



感想 Impression

児童より Impression from Children

- いつも使っている水がこんなに大切なものだとは思いませんでした。
- いつも使っている水なのに、知らないことばかりで驚きました。
- 水に PAC を入れると他のゴミとくっついて沈んで、水がきれいになるのがおもしろかったです。自分も実験してみたかったです。
- 飲み水に厳しい基準がいくつもあることや、地震に備えて浄水場のパイプを置き換えていることがわかりました。
- 浄化して出てきたゴミは、セメントの原料になっていると知ってびっくりしました。
- 僕らのためにいろいろな薬を用意して、いろいろな実験をしてくれて、ありがたいと思いました。

学校より Impression from school

事前の打ち合わせがあまりできなかったので、もう少ししっかりとすればよかったです。実験など子どもが参加できる場があってよかったです。

講師より Impression from lecturer

今回の授業で、子どもたちが実験などに興味を示してくれている姿を嬉しく感じました。

また、きれいな水をみなさんのところへ送るためにも、家から汚れた水を流さない、川や琵琶湖に物を捨てないようにしてほしいと思います。このことが皆さんの飲み水を守ることになるので、みんなで協力していただくようお願いします。